谷戸の風 ㊽

道づれ

山内静夫

鎌倉という土地に住んで九十年を越した。その間、昭和二十三年結婚した直後四年間だけお隣りの逗子で新婚生活を送っただけで、それ以外は鎌倉を離れたことはない。

木版画　藤本宿

生れた場所を含めて六ヶ所住所は変っている。一歳半の時、父が初めて自分の家をもった西御門という所が、私の記憶の始まりである。今私が書いているこの短文のタイトルにある〝谷戸〟という名が正にぴったりの、山襞の間に細く深く家が連らなった集落で、周囲は殆ど畑地だった。父が建てた家は、その辺りでは人目を引く大きな洋館で、今日（こんにち）でも西御門サローネという貸ホールとして健在である。

私は五人兄姉の末っ子だが、小学校三年ぐらいの時兄たちの通学の利便性を考えて鎌倉駅に近い雪ノ下に越した。直後、父が腸チフスで長期入院という事態になり、縁起をかついで又、小町通りの真ん中辺（あたり）に移った。

小説家だった父は、仕事場は東京にあって鎌倉へはたまに帰ってくるというのに、何故こんなに引越しばかりするのかと子供心にも不思議に思ったが、新しい家に変るということは子供には楽しいことだったのかもしれない。

その頃には長兄、次兄と順次社会人となり、そして軍隊に入っていった。姉も結婚し、その連れ合いも医師であったが戦争に行った。一家の人数も減って、又駅の西口に近い町名は同じ小町へ引越した。そしてアメリカとの戦争が始まった。私は長兄も通っていた慶応の予科に進み、二年になった所で赤紙が来た。

東京の仕事場を空襲で失った父は、そこで鎌倉の生活に戻った。そして私は、鎌倉の妻の実家の土地を少し分けてもらって、やっと自分の家を持った。以来六十五年、鎌倉の住人になりきっている。

どんなに頑張って、まさかもう引越しもせず、この地を離れずに、住みなれた鎌倉を道づれに、ひたすら生きていくということか―。

鎌倉ではんこ体験

リヨンから修学旅行の中高生

フランスのリヨン市の学校で日本語を履修している中高生9人が6月7日鎌倉ではんこの歴史や用途、書体などを学び、実際に書類にハンを押したりする体験をしたあと、はんこのデザインづくりに挑戦した＝写真。

講習を行ったのは、市内御成町で印章店を営む月野允裕さん。同店では自身の書体や絵柄がそのまま印鑑になる「はんこ作り教室」を行っていて人気がある。生徒を引率した日本語講師の加藤愛子さんが、修学旅行で日本を訪れる生徒たちに観光だけでなく、日本の文化を体験してもらおうとこの体験教室をスケジュールに入れた。

生徒たちは自分の名前のカタカナと絵柄を組み合わせたデザインを1時間ほどかけて描いた。ブリヤック・ブルジーノさん（15）は「はんこがとてもきれいなものであること、フランスと全く違う日本文化をもっと学びたい」と話していた。

生徒たちのデザインは、月野さんが印材に彫刻機で粗彫りしたあと、手仕上げして手渡した。

料理教室生らが 蓼沼先生を偲ぶ会

鎌倉の文化の発展に尽力し、昨年9月、81歳で逝去された料理研究家・洋画家の蓼沼誠一さんを偲ぶ「故・蓼沼先生を偲ぶ会」が「男の料理教室」関係者を中心に6月10日、鎌倉市内のホテルで開かれ、約百人が参加した＝写真。

蓼沼さんは、1983年に深沢公民館で「男の料理教室」の講師をして以来毎年講座を担当。修了後にできた13サークル約2百人の指導もされていた。蓼沼さんの死後、サークルは解散し、当日は会員同士しばらくぶりの再会で、先生の元気な姿を思い浮かべながら、思い出を語り合った。

落語やハーモニカ、歌などの披露もあり、世話役の青木幸夫さんは「皆さんに楽しんでいただき、先生もどこかで見ていて喜んで下さったような気がして、よかった」と話していた。

美術関係者による偲ぶ会は昨年暮れ行われた。

文学づれづれ ⑮②

『桃太郎と一寸法師』（80）

赤羽根龍夫

次に、一寸法師や桃太郎に征伐された鬼の側から考察してみたい。

佐竹昭宏『酒呑童子異聞』によると、大江山の酒呑童子はもともと「捨て子」であったという。

お伽草子『伊吹童子』によれば、大野木殿の姫君は、三十三カ月目に見るも恐ろしい怪童を生んだ。胎内にあること三十三カ月といえば、承久・天慶の乱を起こした平将門と同記録であるが、この怪童こそ伊吹童子ことの後の大江山酒呑童子であった。

姫君の父は意を決して伊吹山中の谷底に童子を捨てる。童子は初めの間こそ泣き叫んでいたけれども、後にはけろりとして、あたりを駆けまわって遊ぶようになる。

酒呑童子とほとんど同じ誕生譚が御伽草子『弁慶物語』にも見出される。

紀州熊野の別当べんしんは五十になっても子に恵まれず、若一王子へ参篭、申し子を祈念する。北の方は懐妊し、三年三カ月を経て三歳ぐらいの男の子を生む。

この子は生まれるやいなや、肘をついてかっぱと起き上がり、東西をにらみまわしから笑った。鬼子を授かって激怒したべんしんは腰の刀を引き抜いて、我が子を殺そうとしたところを北の方にいさめられ、深山に捨てる。七日目に様子を見に行くと子供は元気に木の実を食べ、「制する人のあらざれば、思いのままに狂いけり」という有様であったという。

酒呑童子を成敗する源頼光（渋川板『しゆてん童子』）＝平凡社選書『酒呑童子異聞』より

佐竹によると、このように性悪で異形・怪力の大男には、鬼子として生まれ山中に捨てられるという一件が必ず伴っていたらしいというが、そうした話を生み出したもとの事実はむしろ逆であったと私は考えている。性悪な鬼子であったから山中に捨てられて、虎狼野牛の類、あるいは山姥に育てられて、ますます乱暴者に成長していったというのではなく、酒呑童子や弁慶などという乱暴者がるという事実がまずあり、彼らが世間に対し乱暴狼藉を働いており、それほどの者ならば定めし生まれつき性悪な鬼子であったに違いないというように想像力を膨らませていった結果、生まれつき性悪な鬼子であったという異常出生譚になったのである。

あるいはまた、何らかの事情で山中に捨てられた子供、すこやかに育ってほしいという母の願いが、やむにやまれぬ事情で頓挫し、山の奥深く捨てられた子供は、かりにそのまま母のふところで育てられたならば、平凡で幸福な生涯を送ったかもしれなかったのに、山中に捨てられ恐らく盗賊の手にでも拾われ、幼児から悪事の数々を教え込まれて狂暴な乱暴者になってしまったに違いない。だとしたら、むしろかわいそうなのは酒呑童子や弁慶の方なのである。

乱世の時代、飢饉の時代、やむにやまれぬ母の事情によって一方的に捨てられ、乱暴者となり、なまじ知力体力に優れていたために同類の悪者どもの頭領となり、自分を捨てた世間にたいする反逆者となった。それ以外になりようのなかった彼らを、世間は鬼と名づけ恐れ忌み嫌う。

さらには誕生までも常人と異なっていたなどと勝手に決めつけられ、異常な出生譚まで付加えられて、常人とは完全に異質な者に追いやられてしまう。彼らもまた恐らく自分の出生の秘密すら知らず、自らを鬼と思い込み、世間に対する反逆者となっていく。

しかし本当に悲しいことに、世間が彼らを裁くのもまた完全に正当なのである。社会は自らの秩序を維持するためには、反逆者を正義の名のもとに征伐しなければならないのである。

（神奈川歯科大名誉教授）

鎌倉朝日 歌壇

香山静子　選

カタクリの群生の中に留まりてうす紫の時間を遊ぶ　逗子市　湊美根子

下句の独自の把握によって詩に昇華させた。

赤潮の由比ケ浜辺に月射せば夜光虫の波青白く寄す　片瀬　中村喬

的確な描写によって現実感があり、色彩も鮮明。

谷戸抜けて明月院へ下る道の崖の高みに岩たばこ咲く　今泉台　下田和夫

少々説明的だが景が鮮やかに浮かぶ。

母の日は花に囲まれ笑み湛へひ孫を抱きし母今いずこ　葉山町　近藤美知子

母の日の品求めれば父の日もお忘れなくとチラシ渡さる　大船　小笹岐美子

さねさし相模の夏野さまようて潮風となるさがみの川よ　辻堂　柳蒼

鷺は「三文の徳」を知りてゐむ白日明けに早くも啼けり　七里ガ浜東　嶋尚久

こんにちは行き交う人の心地良さ金子みすゞの挨拶の町　扇ガ谷　鈴木久子

十センチほどの黒き大蜘蛛すべり来る太鼓のごとき腹をかかえて　材木座　有野裕美子

小夜更けて木如帰の声に目覚めたりも一度聴かむと耳を澄ませり　城廻　塩田文子

心地よきまどろみのなかガビチョウの囀り響く梅雨の晴れ間に　津　石川韶子

鎌倉朝日 俳壇

星野高士　選

〈天〉木道の軽き足音平夏生　大船　添田洋子

写生句がだんだんと夢の世界へうまく飛躍した。

〈地〉湖に富士山映す梅雨晴間　大町　中山佳孝

ほんの一刻の梅雨晴を大きく捉えて非凡。

〈人〉菖蒲田に水は余白として在りぬ　城廻　小美野京子

「在りぬ」で水の存在が圧倒的。座りがよい。

古茶新茶ならべ安らぐ夕かな　津　細田俊

ゆっくりした時間の流れを共有できた。

遠花火鼓動となりて海に落つ　葉山町　近藤美知子

鎌倉か逗子辺りか。中七の表現が新しい。

茶摘女の絣の袖に夕陽映ゆ　横浜市　青木努

茶摘時の夕陽の色が極めて美しさを増した作品。

聖五月沖のヨットの真帆片帆　腰越　松原薫

万緑の中に寄木の細工展　逗子市　佐藤信子

セルを着てひとり碁を打つ傘寿の日　辻堂　柳蒼

村雨に日傘さしかけ立ち話　葉山町　近藤純

洋館へゆるき坂道夏の蝶　逗子市　関よう子

人間の恋を照らせる蛍かな　常盤　片岡和子

七月の海を漕ぎゆく櫂ひとつ　材木座　有野冬花

集落が万緑の中埋もるる　城廻　塩田文子

繍線菊の風をいざなひては弾む　金沢区　岩澤正春

たまさかに見ゆる大島卯月波　片瀬　木下妙子

胡瓜苗縁に並びて移植待つ　材木座　羽賀一男

絵筆塚五月の風が通りけり　腰越　大川昭子

夏帽子深くかぶりて病院へ　今泉　小林圣子

裏山の緑も深く雨に濡れ　手広　高口道宏

ゴム長がはしゃぐ梅雨時通学路　玉縄　若狭芳生

子供等の声する広場鯉のぼり　岡本　森田孝

Yanase かまくらカスター
雪ノ下本店　逗子店
鎌倉駅前本館（かの鎌倉）
ルミネウィング（大船）店

お香 香炉 香道具 匂い袋 高級線香 念珠 他
鎌倉に蘇える伝統の香り
香司 鬼頭天薫堂 鎌倉
鎌倉市雪の下1-7-5 小町通り八幡宮寄り
TEL. 0467-22-1081（代）
http://www.tenkundo.co.jp/

古書 藝林荘（げいりんそう）
古い本、お譲りください
芸能・美術・文学・宗教・和本・摺りもの等
10：30－18：00　月曜定休
鎌倉市雪ノ下1-5-38（小町通り）
☎0467・22・6533
出張買取無料